

令和6年度広島県特別支援学校教育研究大会実施報告

1 趣旨

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

2 日時

令和6年12月26日（木）12：45～16：30

3 会場

広島県民文化センターふくやま
（広島県福山市東桜町 1-21）

4 参加者

広島県特別支援学校教育研究会会員（会員数 1,022 名）参加 303 名

5 研究主題

令和の日本型学校教育実現に向けた個別最適な学びと協働的な学び

6 研究発表

発表順	研究発表校	研究テーマ
1	広島中央特別支援学校	自分で課題に気づき、考え、判断・行動できる思考力の育成
2	西条特別支援学校	児童生徒の「関わる力」「見つめる力」「動く力」「見通す力」を育む取組
3	三原特別支援学校	児童生徒の考える力を育む授業づくり～対話的な活動に着目して～
4	黒瀬特別支援学校	学校教育目標達成に向けたカリキュラム・マネジメントの在り方～黒瀬特支版支援のスタンダードと単元構成シートによる実践～

7 講演

演題：「令和の日本型学校教育の実現を目指した特別支援教育の充実」

講師：文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課

特別支援教育調査官 （聴覚障害・言語障害教育）村上 学 氏

8 当日の様子

開会行事



講演



9 アンケートの結果（抜粋）

大会の運営は適切だったか

肯定的評価 100%

研究発表で参考になったこと

（広島中央特別支援学校）

- ・思考のスキルの整理項目が、大変参考になった。
- ・研究体制の充実により、研究テーマを常に意識した授業づくりができていた。

（西条特別支援学校）

- ・キャリア教育と関連していて、付けたい力も具体的で参考になった。
- ・自立と社会参加に向けて必要な力を関わる力、見つめる力、動く力、見通す力の四つに整理し、授業や行事でも意識しながら実践していた。

（三原特別支援学校）

- ・「対話」と「会話」の違いの説明と、対話的な活動の整理が、大変参考になった。
- ・授業計画シートや振り返りシート等のツールを活用して授業改善が行われているのが参考になった。

（黒瀬特別支援学校）

- ・先生方一人一人の、カリマネへの参画意識がもてるような研修の工夫が参考になった。
- ・学び合いからくる質の向上の段階が分かりやすかった。

講演で参考になったこと

- ・国の動向を、データを交えて説明されていた。
- ・全ての内容が分かりやすく、大切に参考にしたいことだった。改めて立ち返るべき原点と今後自分たちが子供たちのためにどうあるべきかを問い直す良い時間だった。
- ・「学ぶことは何かが変わることである。」ということが印象に残った。
- ・学び続ける教師でありたいと思った。

運営について

- ・受付がなくスムーズだった。
- ・スムーズに運営され、発表や講演の内容に集中して参加することができた。
- ・協議の場を作る等情報交換できるといい。

研究発表

